

▽発信元・お問い合わせ先はこちら  
「人材ビジネスの発展を通じてヒトの成長を追及する」  
株式会社ヒューマンビジネス・コンサルティング  
TEL : 03-6909-8644/0120-973-644  
E mail:info@hb-consulting.jp

## 米国で派遣労働者に安定需要、新規雇用の加速は依然遠く

米国で雇用動向の先行指標とされる派遣労働者の需要が安定し、新規雇用の伸びは依然加速しそうにない。人材派遣業界のアナリストや関係者は、4日発表された10月の米非農業部門雇用者数の増加は経済の緩やかな成長と一致しているものの、成長がすぐに勢いづく兆しはほとんど見られないと指摘する。

小売り業界の雇用増など明るい材料の裏には常にネガティブな材料が存在し、来年にかけて雇用の伸びは緩やかなペースにとどまる可能性が高いことを示唆している。

人材派遣大手アデコの北米事業責任者ティグ・ギリアム氏は、米国の雇用市場について「まさに横ばい状態にある」と述べる。同氏は、10月の米失業率は9%に低下したものの、8%台まで低下するには雇用の大幅な伸びが必要だと指摘する。

アデコによると、派遣労働者の需要は季節要因による増加はあるものの、タイの洪水によるサプライチェーン寸断などの要因によって相殺されている。部品を調達できないメーカーが、数日前になって派遣依頼をキャンセルするケースもあるという。

派遣労働者の数は通常、景気回復の前に増加し、景気悪化の前に減少するため、労働市場動向の先行指標とされる。

人材派遣業界の幹部はここ数カ月、派遣需要が落ち込んでいないとして、景気の二番底を経験する可能性は低いとの見方を示してきた。

BMOキャピタル・マーケッツのアナリスト、ジェフ・シルバー氏は、派遣労働者の雇用は9月から10月に増加するのが通例だが、今年10月の伸びは例年をやや上回った、と指摘する。

とはいえ、米国の労働力人口における派遣労働者の割合は1.75%で、2%以上だった2000年のピークを大きく下回る。シルバー氏は顧客あてのリサーチノートで、需要水準は景気の「ソフトパッチ(一時的な鈍化)」と一致している、との見方を示している。

オランダの人材サービス会社ランスタッド・ホールディングの米国部門への派遣依頼も安定を見せる。シニアバイスプレジデントで雇用のチーフアナリストも務める Joanie Ruge 氏は、「当社に対する需要は大幅な減少も大幅な増加もしていない」と述べ、今年の小売り業界における派遣労働者需要は例年よりもやや強いとの見方を示した。

同氏は「小売り業者は需要増を見込んでおり、ホリデーシーズンに向けて派遣労働者の依頼を増やしている」と説明した。

平成 23 年 11 月 7 日 ロイター